

無理せず、仲良く、未永く

南平岸東町内会

平岸3条14丁目・15丁目、4条13丁目(一部) / 530世帯

南平岸東町内会は、「同じ地域に生活している会員相互の親交を図ること」——これは簡単に言うとお互いが知り合い、あいさつし、何かあったら気遣うことなんですが、それから「生活文化の向上に努めること」を目的とした会です。

私たちの町内会については、「自慢することがないことが一番の自慢」と思っています。日常生活のなかでは「空気のような存在で」、「親子のようなしぜんの付き合いを」、「人として当たり前のことを」ということを、私はうちの町内会の長い歴史から学びました。その歴史を尊重し「無理せず、ゆっくり、できる範囲で、いざというときは対処結束！」を基本的な考え方に、「子どもの心に残る町内会活動を！」をモットーとして活動しています。

この「子どもの心に残る町内会活動を！」のモットーは、あるエピソードから生まれました。ある班の役員が、小さな子たちと夏に花火をしようとしてもマンションの前では煙や音が出るため花火が十分にできない。できればそのような心配のないところで、家族だけでなく大勢で花火ができないかという提案がありまして、検討した結果の事業です。それが本町内会の「七夕まつり(夏祭り)」の取り組みになりました。毎年8月上旬に開催し、花火は無料配布でゲームなどで交流する、我が地域の楽しみの行事です。

札幌市全体で町内会がなくなっても、個々人の生活に不自由が生じなくなるシステム(市の組織も個人の考えも)になることが夢です。イギリスでは、町内会は公に行わなければならないことは、地域の自治体(公)が行い、個人の活動や考えて自由に集まり、個々人の生活は個々人の責任で送るとのこと。地域の束縛で行う活動には限界があり自由な発想が阻害されるため、本当の意味の有効な活動ができません。住民の意思を反映するためには、住民が自らの責任で作った組織に意義があり、自分の地域を自分たちの意思でかたちづくることのできる地域づくりが夢ですね。



会長 清水 保次さん

住みよい、和やかな、
助け合う町内会

南平岸駅前町内会

平岸3条11丁目(一部)~13丁目 / 1,010世帯

1,000世帯を超える町内会で戸建は90世帯。あとはすべて集合住宅に住んでおられます。地下鉄南平岸駅の最寄りです。利便性も高く、若い世帯や単身者も多いエリア。いろいろな人が暮らしています。町内会はこうしたいろいろな人の持ち味や強みを寄せ集め、一つの良い地域をつくりあげる場所だと思います。うちが困ったことがあると助け合える町内会。役員どうしも仲が良く、それぞれに得意なことがあり協力しあっているの。一人暮らしのおばあちゃんの庭の木が生い茂り道路にはみ出したことがあってね。そのときは「どうしてほしい？」って話を聞きに行く役、枝を切りに行く役がいた。町内会では、外で作業に立ち会う係、甘酒の準備係(笑)。そんなふうにしぜんに分担しています。平岸あさがお公園での草刈り作業には、町内会「ぶどう狩り」で役員と顔見知りになった集合住宅の子どもが参加してくれた。道路であそぶ子どもに声をかける役員もいてね。互いがそつと気遣い合う町内会だと思いますね。

7年ほど前から町内会では、見守りのマッチングに取り組んでいます。おしつけでなく見過ごさないことが基本です。必要以上に詮索しない。してほしいことを自分から声をあげてもらおうしくみを考えています。年をとると、ひとりでは何にもできなくなるし、どこかお願いしていいかわからない。うちの取り組みは万能ではないけれど、こうした困りごとを助ける手段の一つだと思っています。

町内会ってふだんの声かけから始まるんじゃないかな。おはよう、いつてらっしゃい、ありがとうって。誰かが声を発していかないと、ほとんどの人は自ら関わってこられないでしょう。それを教えてくれたのは平岸小PTA会長をしていたときの経験。私が卒業式で話した内容を覚えていた子が、突然道端で話しかけてきてくれた。聞いていてくれたんだって嬉しくて。声をかけることで、相手とつながることを小学生に教えてもらったよ。



会長 前田 美江さん

明るく住みよいまちづくり

南平岸第八町内会

平岸3条9丁目(一部)・10丁目・11丁目(一部) / 750世帯

平岸のなかでもうちの町内会あたりが、古くから人が住み始めた場所なんだ。町内会ができたのは昭和42年。それよりも前に地主さんが住宅用に土地を分譲し、移り住んだ人たちが自治会をつくったのが町内会の前身って聞くから60年近い歴史がある。交通の便がよく商店や病院も多くて、昔から住みやすい場所だね。いまでも若い単身者や小さな子どものいる家族がどんどん移り住んでいる。環状通や地下鉄ができて以降はとくに、のんびりのどかだったまちの景色がどんどん変わっていったよ。

急激に人が増え若い人もいるのに、担い手の交代や行事への参加呼びかけがうまくいっていないのが、いまうちの町内会の大きな問題なんだ。総会や行事に出てきたら何か面倒を頼まれると思うのかな。新しい人をうまく取り込めなくなり、体力的にもきつい行事はやめてしまったのさ。平岸児童会館での餅つきや平岸七草公園での盛大な盆踊り……、かつては元気な人がたくさんいて盛り上げてくれていたんだよ。本当に残念なことだと思っていてよ。

いま町内会の支出を大きく占めるのは排雪だね。市のパートナーシップ排雪制度を利用して、町内会エリアが広いものだから毎年100万円ほどかかる。このために他の事業が圧迫されるのさ。中通りに面した企業や商店にも協力をもらい、みんなの生活に支障をきたさないよう取り組んでいる。排雪の日には役員も立ち会って一日がかりの重労働だよ。こうした日常を支える町内会の取り組みや経費のことが、案外知られていないし、発信もうまくできなかったのさ。

親も兄貴も町内会に関わってきた私は、この土地に住むという暮らしの延長で町内会に関わることに抵抗がなかったんだ。いまの若い人には若い人りの交流の場があるんだろうね。それでも孤立しがちと聞くのは心配で、顔が見える町内会に目を向けてほしいと思うよ。こちらのつくり方が足りないって言われるかもしれないけれど(笑)



会長 坂本 恵二さん

思いやりある町内会

南平岸第九町内会

平岸4条14丁目(一部)・15丁目(一部) / 107世帯

「町内会はこういうものだ」って決めつけない方がいいと私は思うんだ。前例踏襲とか昔はこうだったとか言ったらダメさ。新しいことでも、その人のできる範囲でも構わない。そのかわり忘れないで町内会をずっとだいに続けてねって気持ちで、町内会の人たちを見ているよ。

町内会には入りにくいなあって人はいっぱいいると思う。でも興味を持っている人も必ずいる。そういう人に門戸を開いてゆくといいよ。こちら側がちゃんと注意していないとね。私は人に任せることを意識しているよ。役員もなりたてなら当然最初はこうしたらいいのかわからないもの。だから初めに一回教えて、あとは付き添ったり連れまわしたり(笑)。とにかく自分の目で見てもらうのさ。そのうち興味が生まれて、主体的になる人が必ずいる。たとえば敬老の日のお祝い、私と役員とで届けます。役員を高齢者の方に覚えてもらいたいって目的もあるけれど、役員自身に誇りと責任感を持ってもらえるから。

やっぱり人と関わって何かするってことが、人にとって一番たいせつだと私は思うよ。みんなですればかなりのことができる。いっしょにやると成果が出れば、楽しさにつながる。町内会はそういうことができる場所なんです。そして「する」か「しない」かを小ずく考えれば「しない」ほうが楽で簡単だよ。だけど本当にそれでいいのかな？ って引っかかるものがあるから、みんなするんでしょ。自分だって会長をただのつなぎと思って受けたの。だけどやりはじめたら次々とするべきことが見つかった。楽しさを見つけたのさ。

まちづくりも、自分たちは何にもしないで行政に訴えて何でもしてもらおうより、市民のほうから動きをつくって、いよいよつとに公的な援助や智恵をもらえばいい。頼ってばかりだと、下手すれば町内会が崩壊しちゃうよ。自分たちでまとまり、いい場所をつくる努力をするべきだし、これが一番楽しいことじゃないかな？



会長 藤原 孝さん